

水野 修

京都工芸繊維大学

## 本業ではないことの繋がり

自分自身は実際に会ったことがなくて SNS の上だけで存在を知っていて、なのに自分の周囲の人は皆実際に会ったことがあって、しかも、自分が作った人工無脳がいつも迷惑をかけている人から原稿を依頼されたことがありますか？ 私はあります。ということで、直接お目にかかったことがない日立の小川さんから受け取ったリレーエッセイです。

会ったことはない小川さんですが、台湾の国際会議で私の研究室の学生の面倒を見ていただくなど、普通の知り合いよりも何かしてもらってる度合が高い人なので、本当にいつか八ツ橋でも持ってお礼をしに行かねばと思う次第です。

情報処理学会は 10 年ほど会員をしています。あまり運営にはかかわらず（今は SIGSE の運営委員ですが）、ひっそりと研究会やシンポジウムで学生に発表させたりしております。前職の大阪大学にいたころも SIGSE の運営委員をやっていて、そのときに SIGSE を阪大で開催したのが唯一の情報処理学会への貢献みたいなものです。というわけであまり運営にかかわるお話が書けないです。

バトンを受け取ったときになんでも書けと（SNS のダイレクトメールで）言われたので、なぜ SNS で知り合うに至ったのかを書いておこうと思います。私は自分の研究室で魚を飼い始めてからいろいろ道を踏み外しており、科研費でいうところのエフォートが 50% ぐらい魚に向かっていた時期もありました。研究は真面目にソフトウェア工学をやっていて、日々ソースコードの山を解析しているのですが、一方で、研究室の居室には 4 基の水槽や水鉢が鎮座しており、イモリやオイカワやグッピーが泳ぎ、繁殖し、水槽に植えたポトスが天井まで茂ってジャングルになるなど、何やら生態系らしき物が構築されて

います。来客の方に一様に「これは生物系の研究ですか？」と訊かれるので「No」というのが常になっています。そして 5 年前にこの水槽に設置されたのが自動水槽管理を目的とした「あくあたんシステム」です。ロボットが定時にエサを撒きに行き、写真を撮り、そして、水槽の様子を Twitter にアップして現状を知らせてくれ、異常が起これると連絡を寄越してくるものになっています。Twitter には自動プログラム (bot) 「あくあたん」が常駐しており、あくあたんに話しかけると人工無脳で返事したり、水槽に対するコマンド（遠隔での餌やりや、水槽間の移動）を実行できたりします。あくあたんをフォローする人は大抵は学生さんなのですが、中にはかつて学生だった方がいて、その方の上司・同僚つながりから、あくあたんにたどり着く人ができました。長くなりましたが、こうして謎の人脈が生まれ、私がここで原稿を書くことになってしまったわけです。

なお、このあくあたんシステムは私の予定や在室状況も把握しているので、簡易秘書にもなっています。さらに推し進めた結果、研究室のメンバの在室状況がロールプレイングゲーム風の画面で可視化されるシステムを作ってしまった。こういう妙なものを作っていると、なんだか研究じゃないところでも名前を知ってくださる人ができたりして、非常に面白いものだなと思います。

さて、このコラムはソフトウェア工学関係の人が 3 人ぐらい続いているので、私の（本来の）研究テーマからはなるべく遠いところへ次をお願いしようと思ったのですが、生来の交友関係の狭さでなかなか苦労します。そんな中で、大阪大学の倉本到先生にバトンを渡したいと思います。楽しいお話の引き出しが多い方ですので、きっと面白いお話がいただけると思っています。

